

## 幼保小連携推進事業について

「町田市接続カリキュラム」の作成について報告します。

### 1 策定の背景・課題

- 広く社会で活躍するための資質や能力を伸ばすために幼児期から小学校低学年までが重要
- 就学期に劇的に変化する子どもの育ちと学び
- 町田市における幼保小連携の現状・課題
  - ① 幼保と小の教育内容の違いに関する理解が不足している。
  - ② 幼保と小で接続期を見通したカリキュラム策定が進んでいない。

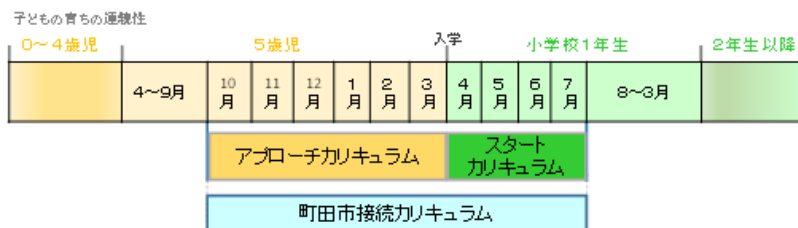
### 2 策定にあたっての基本的な考え方

- 子どもの学びと育ちを伸ばす
- 幼保小相互に接続を見通した教育の実践
- 幼保小の職員間の意見交換、合同研究の充実
- 幼保小子ども交流の充実
- 接続期の子どもの保護者理解・園、学校と保護者との連携の促進

### 3 町田市接続カリキュラム

#### (1) 町田市接続カリキュラムを2つのカリキュラムで構成

- 5歳児の10月～3月（アプローチ期）のカリキュラムを「アプローチカリキュラム」、小学校1年生の4月～7月（スタート期）のカリキュラムを「スタートカリキュラム」で構成
- 町田市の幼稚園、保育園、小学校における接続期の教育・保育の質を向上するためのスタンダードカリキュラムとして作成
- これに基づいて各園、各校のカリキュラムを作成し、接続期の教育・保育を実施



#### (2) 町田市として接続期に目指す町田っ子像

- 町田市内の幼保・小学校が、共通の目的・方向性をもって接続期の教育が実践できるよう、町田市として目指す「町田っ子像」を示した。
- 保育者・教員が「町田っ子像」を実現するために、接続期のそれぞれの子どもの姿を捉えた上で保育・教育を実践するための視点を「8つの具体的視点」としてまとめている。

#### ◇目指す「町田っ子像」 「なかよく・わくわく・いきいき町田っ子」

“なかよく” →ともに生活する子

友だちや先生などの周りの人との関わりを大切にしながらみんなで学び合い、生活する

“わくわく” →進んで学ぶ子

様々なことに心動かし、興味関心をもって取り組む

“いきいき” →自他を大切にする子

集団生活の中でも子どもひとりひとりが自分に自信をもって行動する

◇「町田っ子像」と「8つの具体的視点」

町田っ子像	8つの具体的視点
ともに生活する子	<ul style="list-style-type: none"> <li>●自分の思いを伝え、相手の思いを受けとめる</li> <li>●規範意識をもつ</li> <li>●一緒に活動することを楽しむ</li> </ul>
進んで学ぶ子	<ul style="list-style-type: none"> <li>●興味・関心をもって意欲的に取り組む</li> <li>●子どもが自ら考える</li> <li>●わくわくきらきら心を動かすことができる</li> </ul>
自他を大切にする子	<ul style="list-style-type: none"> <li>●自己肯定感をもつ</li> <li>●ひと（自分も他人も）を大切にする</li> </ul>

(3) 接続期のカリキュラムの全体図

➤ 接続期に適した教育・保育のスタンダードカリキュラムとして「接続期のカリキュラムの全体図」を示した

＜接続期のカリキュラムの全体図 イメージ図＞

接続期のカリキュラムの全体図

町田っ子像	具体的視点	幼稚園・保育所で育てたい内容						小学校1年生・学期で育てたい内容					
		10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月		
ともに生活する子	自分の思いを伝え、相手の思いを受けとめる	5歳児中期の 自分の思いを伝え、相手の思いを受けとめる	5歳児中期の 自分の思いを伝え、相手の思いを受けとめる	5歳児中期の 自分の思いを伝え、相手の思いを受けとめる	5歳児中期の 自分の思いを伝え、相手の思いを受けとめる	5歳児中期の 自分の思いを伝え、相手の思いを受けとめる	5歳児中期の 自分の思いを伝え、相手の思いを受けとめる	1年生1学期の 自分の思いを伝え、相手の思いを受けとめる	1年生1学期の 自分の思いを伝え、相手の思いを受けとめる	1年生1学期の 自分の思いを伝え、相手の思いを受けとめる	1年生1学期の 自分の思いを伝え、相手の思いを受けとめる	1年生1学期の 自分の思いを伝え、相手の思いを受けとめる	1年生1学期の 自分の思いを伝え、相手の思いを受けとめる
	規範意識をもつ	5歳児中期の 規範意識をもつ	5歳児中期の 規範意識をもつ	5歳児中期の 規範意識をもつ	5歳児中期の 規範意識をもつ	5歳児中期の 規範意識をもつ	5歳児中期の 規範意識をもつ	1年生1学期の 規範意識をもつ	1年生1学期の 規範意識をもつ	1年生1学期の 規範意識をもつ	1年生1学期の 規範意識をもつ	1年生1学期の 規範意識をもつ	1年生1学期の 規範意識をもつ
	一緒に活動することを楽しむ	5歳児中期の 一緒に活動することを楽しむ	5歳児中期の 一緒に活動することを楽しむ	5歳児中期の 一緒に活動することを楽しむ	5歳児中期の 一緒に活動することを楽しむ	5歳児中期の 一緒に活動することを楽しむ	5歳児中期の 一緒に活動することを楽しむ	1年生1学期の 一緒に活動することを楽しむ	1年生1学期の 一緒に活動することを楽しむ	1年生1学期の 一緒に活動することを楽しむ	1年生1学期の 一緒に活動することを楽しむ	1年生1学期の 一緒に活動することを楽しむ	1年生1学期の 一緒に活動することを楽しむ
	興味・関心をもって意欲的に取り組む	5歳児中期の 興味・関心をもって意欲的に取り組む	5歳児中期の 興味・関心をもって意欲的に取り組む	5歳児中期の 興味・関心をもって意欲的に取り組む	5歳児中期の 興味・関心をもって意欲的に取り組む	5歳児中期の 興味・関心をもって意欲的に取り組む	5歳児中期の 興味・関心をもって意欲的に取り組む	1年生1学期の 興味・関心をもって意欲的に取り組む	1年生1学期の 興味・関心をもって意欲的に取り組む	1年生1学期の 興味・関心をもって意欲的に取り組む	1年生1学期の 興味・関心をもって意欲的に取り組む	1年生1学期の 興味・関心をもって意欲的に取り組む	1年生1学期の 興味・関心をもって意欲的に取り組む
進んで学ぶ子	子どもが自ら考える	5歳児中期の 子どもが自ら考える	5歳児中期の 子どもが自ら考える	5歳児中期の 子どもが自ら考える	5歳児中期の 子どもが自ら考える	5歳児中期の 子どもが自ら考える	5歳児中期の 子どもが自ら考える	1年生1学期の 子どもが自ら考える	1年生1学期の 子どもが自ら考える	1年生1学期の 子どもが自ら考える	1年生1学期の 子どもが自ら考える	1年生1学期の 子どもが自ら考える	1年生1学期の 子どもが自ら考える
	わくわくきらきら心を動かすことができる	5歳児中期の わくわくきらきら心を動かすことができる	5歳児中期の わくわくきらきら心を動かすことができる	5歳児中期の わくわくきらきら心を動かすことができる	5歳児中期の わくわくきらきら心を動かすことができる	5歳児中期の わくわくきらきら心を動かすことができる	5歳児中期の わくわくきらきら心を動かすことができる	1年生1学期の わくわくきらきら心を動かすことができる	1年生1学期の わくわくきらきら心を動かすことができる	1年生1学期の わくわくきらきら心を動かすことができる	1年生1学期の わくわくきらきら心を動かすことができる	1年生1学期の わくわくきらきら心を動かすことができる	1年生1学期の わくわくきらきら心を動かすことができる
	自己肯定感をもつ	5歳児中期の 自己肯定感をもつ	5歳児中期の 自己肯定感をもつ	5歳児中期の 自己肯定感をもつ	5歳児中期の 自己肯定感をもつ	5歳児中期の 自己肯定感をもつ	5歳児中期の 自己肯定感をもつ	1年生1学期の 自己肯定感をもつ	1年生1学期の 自己肯定感をもつ	1年生1学期の 自己肯定感をもつ	1年生1学期の 自己肯定感をもつ	1年生1学期の 自己肯定感をもつ	1年生1学期の 自己肯定感をもつ
	ひと（自分も他人も）を大切にする	5歳児中期の ひと（自分も他人も）を大切にする	5歳児中期の ひと（自分も他人も）を大切にする	5歳児中期の ひと（自分も他人も）を大切にする	5歳児中期の ひと（自分も他人も）を大切にする	5歳児中期の ひと（自分も他人も）を大切にする	5歳児中期の ひと（自分も他人も）を大切にする	1年生1学期の ひと（自分も他人も）を大切にする	1年生1学期の ひと（自分も他人も）を大切にする	1年生1学期の ひと（自分も他人も）を大切にする	1年生1学期の ひと（自分も他人も）を大切にする	1年生1学期の ひと（自分も他人も）を大切にする	1年生1学期の ひと（自分も他人も）を大切にする

## (4) 「つながりシート」

- 保育者・教員が子どもの育ちの連続性を把握し、それぞれの時期にふさわしい教育を実践できるように支援のポイントや環境づくり、活動例を示した「つながりシート」を策定

### ＜つながりシート イメージ図＞

		とも生活する子 自分の思いを			伝え、相手の思いを受けとめる							
		10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	
育てたい子どもの姿	5歳児中期の姿	<p>5歳児中期の姿</p> <p>自分の言いたいことを言葉で表現し、先生や友達の話をよく聞こうとする。</p> <p>・友達と遊びたいイメージを共有し、自分の思いや考えを言葉で伝えようとする。</p> <p>・自然に必要な言葉（あいさつ、ごめんなど）をありがとうを言葉で伝える。</p> <p>・困っていることなどを先生や友達に言葉で伝える。</p>			<p>5歳児後期の姿</p> <p>言葉を通して先生や友達と心を通わせたいことを大切にしようとする。</p> <p>・共通の話題に向けて話したり、話しかけたり、役割を分り合ったりする。</p> <p>・友達の話に話を聞き、喜ぶ思いなどに気付く。</p>				<p>1年生1学期の姿</p> <p>人の話をよく聞こうとする。</p> <p>・友達を喜ばせながら、文字や言葉で伝えようとする。一緒に考えようとする。</p> <p>・困ったとき話したいことがあるとき、自分の言葉で考え自分から伝える。</p> <p>・人の話をよく聞き、相手の思いや意見を聞こうとする。</p>			
	育てたい子どもの姿	<p>＜心がまえ＞子どもの話をよく聞き、視線を合わせたり、最後まで丁寧に話を聞いたりして、受け止めてもらえる安心感を感じようとする。</p> <p>・声のトーンや表情、話し方を工夫する。</p>			<p>＜心がまえ＞安心して話せる環境をつくり、聞くことの大切さを気付かせたり、相手に伝わりやすい話し方を助言したりする。</p> <p>・話を聞く姿勢、相手に伝わる話し方などを教師自身が手本となったり、よく聞いている子どもをほめたりする。</p>				<p>＜心がまえ＞安心して話せる環境をつくり、聞くことの大切さを気付かせたり、相手に伝わりやすい話し方を助言したりする。</p> <p>・話を聞く姿勢、相手に伝わる話し方などを教師自身が手本となったり、よく聞いている子どもをほめたりする。</p>			
実践のポイント	環境づくり	<p>・保育者と子どもの信頼関係を築くこと、子ども同士の意識疎通を図れることを大切に、話そう、聞くこととする意図を生かせる環境に配慮する。</p> <p>・共通の話題を軸にした話題などを取り上げ、スピーチ、インタビューなどのやりとりの場面をつくる。</p>			<p>・気が散るもの、不必要な雑音、話や考えを遮るものなどを避け、ときには教師のまわりに集まるとペーパーアップ、クラス全体での活動的な場に応じて場の設定をする。</p> <p>・必然性のある音やクイズなど意図的な内容にするなど、工夫をする。</p>				<p>・気が散るもの、不必要な雑音、話や考えを遮るものなどを避け、ときには教師のまわりに集まるとペーパーアップ、クラス全体での活動的な場に応じて場の設定をする。</p> <p>・必然性のある音やクイズなど意図的な内容にするなど、工夫をする。</p>			
	活動例	<p>・朝の会や誕生会でのスピーチやインタビュー</p> <p>・絵本の読み聞かせ後、内容の質問などのやりとり</p> <p>・お遊戯会に向けて話し合い（計画、練習）</p> <p>・イベント後の振り返り</p> <p>・お手紙の作成、朝のあいさつ運動</p>			<p>・スピーチ（休み中の思い出）とそれに対する質問</p>				<p>・スピーチ（自己紹介、楽しかったこと、行事後の思い出）</p> <p>・先生の話、友達の話など聞く場（授業、生活会等）</p> <p>・朝の会（一日を振り返って今日の良かったこと、がんばったこと）</p> <p>・ペア活動（一対一で伝え合う経験から全体での発表）</p>			
幼児期から小学校へ		<p>幼児期から小学校へ</p> <p>＜心がまえ＞子どもの話をよく聞き、視線を合わせたり、最後まで丁寧に話を聞いたりして、受け止めてもらえる安心感を感じようとする。</p> <p>・声のトーンや表情、話し方を工夫する。</p>							<p>＜心がまえ＞安心して話せる環境をつくり、聞くことの大切さを気付かせたり、相手に伝わりやすい話し方を助言したりする。</p> <p>・話を聞く姿勢、相手に伝わる話し方などを教師自身が手本となったり、よく聞いている子どもをほめたりする。</p>			

## (5) 円滑な接続を見通した教育の実践事例

- 接続期の課題や市内各幼稚園、保育園、公立小学校における取り組み等を踏まえて、幼児期から児童期への円滑な接続をするための教育の実践事例を提示

### ＜掲載事例＞

- 交通安全教室で交通ルールを守ろう！ ●音はなぜ出るの？ ●電車ごっこ
- 朝のスピーチ ●さあ はじめよう きょうから 1ねんせい ●異文化にふれよう！

### ＜実践事例のイメージ図＞

アプローチ カリキュラム 実践例	【活動名】 異文化に触れよう！	【活動名】 音はなぜ出るの？
めざす姿	<p>＜心と（自分も他人も）を大切にす＞＜興味・関心をもって意図的に取り組む＞</p> <p>・身近な人々の交流を楽しむ</p> <p>・身近なことに関心をもつ</p>	<p>＜むくむくきらきらと音を出すことができる＞＜興味・関心をもって意図的に取り組む＞</p> <p>・異文化の音や振動のないものに当たったとき、心の動きに気付く</p> <p>・興味をもったことに意図的に取り組む</p>
環境づくり	<p>・世界には様々な国や言葉があることを知る。</p> <p>・どんな国や言葉があるかという話のきっかけ、興味をもたせる。</p>	<p>・音が出ると、ピアノを弾いて歌をみながら歌って楽しむという体験から、「ピアノの音はなぜ出るの？」という問いをもち、音の仕組みに興味をもつ。</p>
子どもの姿	<p>・知っている国や言葉を紹介する。</p> <p>・「知っている国や言葉を紹介する。」「知っている国や言葉を紹介する。」「知っている国や言葉を紹介する。」</p>	<p>・ピアノの音の仕組みに興味をもつ。</p> <p>・ピアノの音の仕組みに興味をもつ。</p>
保育者の支援	<p>・「あは、こんにちは」という言葉はほかの言葉でどう言おうかと興味をもち、興味をもたせる。</p> <p>・子どもが安心して話せるように、場づくりを大切にしながら進めようとする。</p> <p>・「国、言葉、絵、色、音」などを日本語で説明し、子どもが興味をもつよう工夫する。</p> <p>・一緒に話そうとすることで意図的に話せるようになる。</p> <p>・興味をもたせようとする。</p> <p>・「あは、こんにちは」という言葉はほかの言葉でどう言おうかと興味をもち、興味をもたせる。</p>	<p>・ピアノの音の仕組みに興味をもつ。</p> <p>・ピアノの音の仕組みに興味をもつ。</p> <p>・ピアノの音の仕組みに興味をもつ。</p>
園からつなぐ視点	<p>園を通して、外国の文化や言葉を知り、相手の話をよく聞けること大切にする。外国や言葉で話せるだけでなく、楽しみながら、お互いのことを理解していくことを学び、他者との共通点や違いを知ることで、人はそれぞれ違うことに気付く、個人個人を尊重する大切さを知る。</p>	<p>音か感性を育むためには、子どもが音聞いて何を感じ、何に気付く、どんな感情を抱くのか、それによってどのようにイメージを膨らませるのか、表現のプロセスに着目していく。そのような経験ができる機会をたくさん用意することで、音の振動の様々なものに興味をもち、子ども自らから関わっていくようになる。</p>
10の姿とのつながり	<p>健康な心と体 自己心 協働性 読解性・読解態度 社会生活</p> <p>思考力 自然 数量や文字 言葉 感性と表現</p>	<p>健康な心と体 自己心 協働性 読解性・読解態度 社会生活</p> <p>思考力 自然 数量や文字 言葉 感性と表現</p>

「えいごのまちだ」につながる！

## (6) 子どもの交流、職員間の連携、家庭との連携

➤ 幼児期の教育と小学校教育の円滑な接続を図るための具体的な取り組みとして、園と小学校の交流・連携の方法や、家庭との連携について提示

- 子ども同士の交流・・・園訪問、学校訪問、授業見学など
- 職員間の連携・・・幼保小連携協議会、幼保小担当者会議、職員合同研修など
- 家庭との連携・・・保護者就学準備説明会（アプローチカリキュラムの説明、家庭で行う就学準備）、就学説明会（スタートカリキュラムの説明等）など
- その他・・・幼児教育アドバイザーによる保育士等への相談・助言など

## 4 本カリキュラムの今後の展開

- **接続カリキュラム作成実践ワークショップの開催**  
町田市内5地域に分け、各地域に設置する幼稚園、保育園、認定こども園の保育者および小学校教諭が一同に介し、カリキュラム内容の説明、参加者同士で幼保小連携の理解を深めるための意見交換やデモンストレーションを実施する。

### <町田市接続カリキュラム検討委員（敬称略）>

立華幼稚園	園長	山岸 喜一郎	鶴川第一小学校	校長	中村 雄一◎
町田こぼと幼稚園	副園長	神蔵 かおる		主任教諭（2年担任）	小泉 裕美
鶴川若竹幼稚園	園長	萩原 康弘	町田第一小学校	主幹教諭（1年担任）	後藤 富美子
開進幼稚園	年長学年主任	近野 結以	町田第四小学校	主任教諭（2年担任）	山田 江里
山崎保育園	担当係長	加藤 三津子	南つくし野小学校	主任教諭（1年担任）	竹下 侑希
しぜんの国保育園	園長	齋藤 美和	小山中央小学校	主任教諭（2年担任）	栗城 佳美
小野路保育園	5歳児担任	小寺 咲	高ヶ坂小学校	校長	大和 愉子
サンフィール保育園	園長	網野 裕華○		主任教諭（2年担任）	佐藤 陽子

学識経験者 東京家政学院大学 准教授 丹羽さかの

※◎委員長、○副委員長